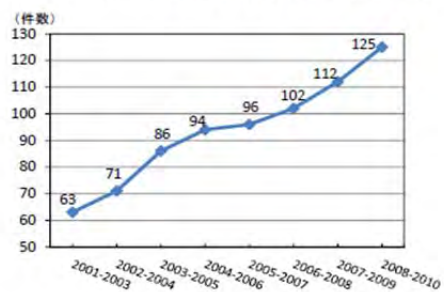


- 国際標準化に係る各国動向と日本の現状

- 従来から積極的な活動を進める欧州、米国に加え、韓国、中国の企業がグローバル市場でシェアを急速に拡大するとともに、標準化活動への取組みを急速に強化。
- 一方、日本の活動は、欧米主要国等と比較して低調（図 1-15）。

日本からの国際標準提案件数推移 (ISO・IEC 合計)



国際幹事引受数の国別内訳 (2010年末)



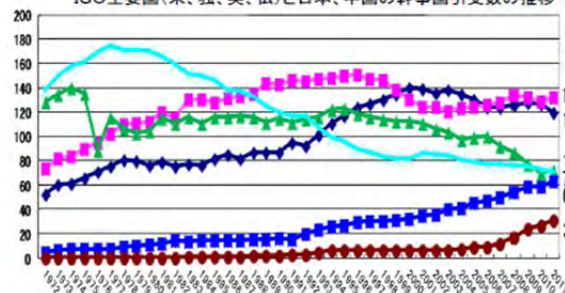
ISO:国際標準化機構 (International Organization for Standardization)
IEC:国際電気標準会議 (International Electrotechnical Commission)

IECへの国際標準提案件数

国名	国際標準提案件数
韓国	20 → 25
中国	11 → 23
アメリカ	8 → 18
日本	22 → 16

(2008.10 - 2009.9) → (2009.10 - 2010.9)
(IEC事務局長講演資料より)

ISO主要国(米、独、英、仏)と日本、中国の幹事国引受数の推移



IEC主要国(米、独、英、仏)と日本、中国の幹事国引受数の推移

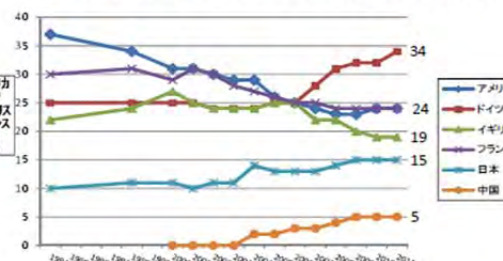


図 1-15 : 日本の ISO/IEC への寄与状況

(出典) 経産省 情報通信審議会 情報通信政策部会 情報通信分野における標準化政策検討委員会 (第 5 回)

“経済産業省における国際標準化への取組について” 2011 年 10 月

(http://www.soumu.go.jp/main_content/000134879.pdf)

1.3. 諸外国の ICT 研究開発戦略

1.3.1. 米国

- NSTC（国家科学技術委員会）が、NITRD 小委員会（Networking and Information Technology Research and Development）の調整を踏まえ、NITRD プログラムを策定している。NITRD プログラムは省庁横断的に情報通信分野の研究開発を推進するプログラム。実質的には各省庁の情報通信分野の研究を取りまとめたものである。
- 分野は、8 つのプログラムエリア PCA(Program Component Areas)と、各機関が連携すべき優先課題を扱う 4 つのグループ SSG(Senior Steering Group) とから構成される（表 1-1）。
- 予算額は、2013 年度要求予算は 38.079 億ドルであり、前年度比 1.8%増となっている。特に、セキュリティと情報保証（CSIA）の増加率が最も高く、2012 年から 13%増、2011 年からは 50%増、となっている。

表 1-1 : NITRD におけるプログラムエリア PCA とグループ

PCA (Program Component Areas)	SSG (Senior Steering Group)
<ul style="list-style-type: none">● ハイエンドコンピュータのインフラとアプリケーション (HEC&IA)● ハイエンドコンピュータの研究開発 (HEC R&D)● 社会・経済・雇用との連携および人材開発 (SEW)● 人間とコンピュータのインタラクションと情報管理 (HCI&IM)● 大規模ネットワーク (LSN)● 高信頼なソフトウェアとシステム (HCSS)● ソフトウェアの設計と生産性 (SDP)● セキュリティと情報保証 (CSIA)	<ul style="list-style-type: none">● サイバーセキュリティと情報保証 R&D SSG (2008 年設立)● ワイヤレススペクトラル R&D SSG (2010 年設立)● ヘルス情報技術 R&D SSG (2010 年設立)● ビッグデータ R&D SSG (2011 年設立)